第 2 回ＭＯＴシンポジウム

『ＭＯＴ人材がもたらすイノベーション』

モデレーター
技術経営系専門職大学院協議会　会長
古川勇二

安倍新内閣のもとでイノベーション議論が盛んになりつつあります。10 月 26 日には、内閣府特別顧問に就任された黒川　清氏（前学術会議会長）を座長とする「イノベーション 25」が設置されました。

「イノベーション 25」では、2025 年における日本の社会，経済，産業などがどのようになっているかを想定して、そこに行き着くための最適な「イノベーションルート」を模索することとなります。とりわけ「産業イノベーション」においては、先端科学としての情報技術（ＩＴ），バイオテクノロジー（ＢＴ），ナノテクノロジー（ＮＴ），環境技術（ＥＴ）の開発と、それらを基礎として、研究を事業化に結びつけるための「ものづくりイノベーション」が課題とされております。恐らく、我が国の「産業イノベーション」は、先端科学とものづくりとの融合型に特徴があり、それが他国との相違・優位性に帰着するのではないでしょうか。これを「日本型産業技術イノベーション」と位置づけ、強力に推し進めなければなりません。

そのためには次代を担う基礎研究者，技術者，経営者の育成が不可欠ですが、これらを俯瞰しイノベーティブソルーションを創案・実行できる技術経営者の育成が、「ものづくり立国」を標榜する我が国には不可欠です。

2025 年の「美しい日本」の実現には、世界，社会，環境に配慮して富を創出できる技術経営リーダーが多数必要で、その担い手がＭＯＴ大学なのです。

基調講演では、産業総合研究所の吉川弘之先生より「本格経営と技術経営」のタイトルで、基礎研究と応用研究（民間での事業化研究）との中間に位置する第２の基礎研究ともいうべき「本格研究」を大学も拡張していくことの必要性、この「本格研究」を事業化に結びつけるための本格研究と民間事業の双方に長けた人材、すなわち「第一のＭＯＴ人材」の必要性、さらには「第一のＭＯＴ人材」が「第二のＭＯＴ人材」となって、技術を基礎に企業経営し、イノベーションによる事業拡大，起業，分社，第二の創業を行なう未来像についてご講演していただきます。

パネルディスカッションでは、「ＭＯＴ人材がもたらすイノベーション」と題して、５名のパネリストの皆様にお願いし、それぞれのお立場からの識見をご披露していただきます。

伊佐山先生には、グローバル企業「日産自動車」の経営トップとして、ＭＯＴ人材をどう見るか、日本のＭＯＴの在り方

久間先生には、家電から原子力までの電機トップ企業として、次なるイノベーションの課題･体制とＭＯＴ人材の必要性

上野先生には、規模は小さくともイノベーティブな会社の代表として、これからの生き残りに何が必要で、それを支える人材に何を求めるか

中村先生にはジャーナリストの立場から、安部内閣の産業技術方針、大学における人材育成の方向性、日本型ＭＯＴに期待すること

林先生には経営コンサルタント，海外のＭＯＴにも通じておられる有識者の立場から、わが国のＭＯＴスクールの欠陥、今後の展開の方向

＜パネラー＞

日産自動車株式会社	副会長	伊佐山建志
三菱電機株式会社	常務執行役　開発本部長	久間　和生
東成エレクトロビーム株式会社	代表取締役社長	上野　保
日本経済新聞社	編集委員	中村　雅美
株式会社国際戦略デザイン研究所	代表	林　　志行

今回のＭＯＴシンポジウムは、昨年に引き続いての開催になります。
昨年は、「動きだした技術経営系専門職大学院」のタイトルでシンポジウムを開催しました。
ＭＯＴ専門職大学院は平成１５年から開講し、現在１０校になりました。修了生も社会に出て活躍し始めました。
このシンポジウムを通して、ＭＯＴ人材が日本社会に貢献するにはどうあるべきかを、教育機関である大学、その活躍先である産業界が率直に意見を交換し、「日本型ＭＯＴ」を創り上げていくことができればと考えております。